

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会

Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 27 年 4 月 30 日 第 5 巻（第 1 号）

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 今年度の災害支援活動に向けて
2. 災害ソーシャルワーク研修を開催して
～ 大分県医療ソーシャルワーカー協会から ～
3. 災害ソーシャルワーク研修で講師を務めて
4. 活動報告 ～追悼式に参列して～
5. 各団体紹介
6. 災害支援チームからのお知らせ
7. 災害支援ニュース発行のお知らせ
8. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」 発売中！！

詳細は“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1. 今年度の災害支援活動に向けて

災害支援チーム

統括責任者

笹岡 眞弓

2015 年度の石巻活動が開始されました。今年度をもって当協会の活動は終止符を打ちますが、協会事務所は4月の終わりに蛇田地区に新たに建設された復興住宅街の中にある集会所に移転しました。仮設住宅被災者自立生活支援事業も受託し5年目の活動は開始されたばかりですので、最後まで力を尽くしたいと思います。

仮設住宅から、復興住宅への移行に伴う手続き等に支援が必要な方もいらっしゃいます。しかし、今後虫食い状態になっていく仮設住宅に取り残される自立困難の方々への支援こそ、ソーシャルワーカーとして全力を挙げて取り組むべき課題だと思います。現地でソーシャルワーク活動を日々実践している協会職員の3人に加えて、災害支援チームからは、3人のスーパーバイザーとして相原和子氏が、引きこもりの子を持つ親を持つ会のグループワークを担当している西田知佳子氏が定期的に出向いています。私も責任者として毎月市役所、社会福祉協議会、包括ケアセンター、病院局などの関係者と協議を重ねています。これまでの

4年石巻の現地担当者として関わってきたチームメンバーも石巻の活動を支えています。定期的に来て下さる協力員の方々も石巻の復興に力を尽くしています。しかし、石巻市が抱える震災後の負荷はまだまだ重いと言わざるを得ません。

ソーシャルワーカーとして、外部支援者として「最後の一人まで」支援を続けるのか、その必要性とは何か、についてはまだ答えが見つからないのが現状です。何らかの形で、石巻支援を継続できないかと、今その可能性を探っているところです。

ぜひ、5月の京都大会で会員の皆様のご意見を聴きたいと思います。関心を持って下さることがまず一歩です。昨年に引き続いてバザーも開きます。活動記録『医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』も出版できました。ぜひ、ご購入ください。

東日本大震災を風化させないことも、私たちの仕事であるように思います



2. 災害ソーシャルワーク研修を開催して

大分県医療ソーシャルワーカー協会

災害支援部担当理事 今尾 顕太郎

大分県医療ソーシャルワーカー協会では、例年、東日本大震災が起きた3月に災害研修を開催しています。今年も、2015年3月29日（日）に、大分県社会福祉介護研修センターで開催いたしました。

『ソーシャルワーカーとして、私たちにできる事。～東日本大震災から学ぶ～』をテーマとして掲げ、以下の3つの目的のもと実施いたしました。

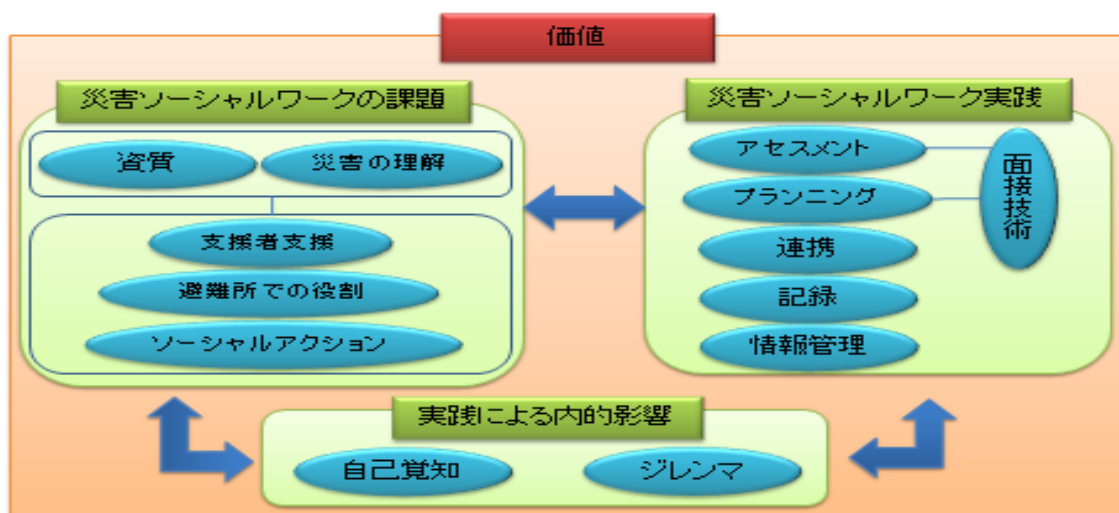
- ①東日本大震災等の大規模災害において、相談援助専門職として行った活動から、自らの専門性を再考し、これからの災害対策に寄与する。
- ②大分県及び県内の関連団体における災害支援体制を知り、自県が被災した際の対応及び協会としての活動について考える。
- ③当協会の取り組みについて会員及び他関係団

体への周知を図る。

午前の部前半では、（公社）日本医療社会福祉協会の石巻市現地責任者である、畑中良子氏より、「発災から今日までの日本医療社会福祉協会の取り組みについて」ご講演をいただきました。発災直後から現在にかけて展開されてきた活動報告の中には、多岐に渡る活動を、数多くの支援者で紡いできた経過に驚き、また、そこから見えてきた具体的な問題から、今後の災害支援の指針となるような課題が抽出されており、当協会としても非常に多くの学びを頂きました。

後半の部では、当協会の災害ソーシャルワーク研究班として取り組んだ「災害後の生活再建における在宅医療連携と医療ソーシャルワークの機能」の報告を行いました。

各項目の関係と全体像



2年にわたる研究活動の結果、医療ソーシャルワーカーは災害時にも専門的価値に基づき、図のようなサイクルで、専門的機能を発揮しつつ、生活再建に貢献しており、造語的なMedical Social Worker というよりも、socialwork in hospital の実践者/専門家であるという結論を報告しました。

午後の部では、『災害対応構想カンファレンス』と題し、畑中氏に助言者として再度御登壇頂き、当会の井元会長の司会進行により、大分県福祉保健部医療政策課、大分県ボランティア・市民活動センター、(公社)大分県理学療法士協会、(公社)大分県放射線技師会、大分県医療ソーシャルワーカー協会等、各組織の災害担当の方々から災害に対する取り組みについてのご報告の後、シンポジウムを行いました。

いずれの組織、団体もそれぞれの専門性に応じ

た取り組みや今後の課題を示しつつ、相互理解、相互協力の必要性・重要性を共有した結果となりました。

石巻より畑中氏が来県し、生の声を聴かせていただけたことは、当協会会員のみならずシンポジウムに参加していただいた他組織・他団体にも専門性を伝えることができ、非常に意義深いものであったと感じています。心より感謝申し上げます。

さて、大分県医療ソーシャルワーカー協会では、本年度から災害ソーシャルワーク研究班を災害支援部に再編し、災害対策に取り組んでいくこととなりました。これまで、どちらかというとは被災県として支援に向かうことを想定して取り組んできましたが、今後は、被災県となった場合の、域内対応、受援体制の構築についての協議を進めて参りたいと考えております。

3. 災害ソーシャルワーク研修で講師を務めて

石巻現地責任者

畑中 良子

3月29日に行われた大分県医療ソーシャルワーカー協会主催の災害ソーシャルワーク研修会に講師として招かれました。研修会のテーマは『ソーシャルワーカーとして、私たちにできる事。～東日本大震災から学ぶ～』でした。

午前中に「発災から今日までの日本医療社会福祉協会の取り組みについて」を報告しました。初めに避難所での支援にふれ、現地で感じている課題や住民が今いる状況、環境についてもお話ししました。

「被災地でのソーシャルワーク」という言葉で

は具体的にどのような問題が現地では起きており、それに対し、ソーシャルワーカーが何を行っているのか？という事はイメージができていくと思います。今回は事例を通して、活動を伝える事でより理解が深まったと感じています。

その後、大分県協会の災害ソーシャルワーク研究班として取り組んだ「災害後の生活再建における在宅医療連携と医療ソーシャルワークの機能」の報告が行われました。

午後からは幅広い分野から責任者が参加して災害対応構想カンファレンスが開催されました・大

分県医療政策課の後藤忠宏課長補佐「災害時における医療救護活動について」、甲斐賢二大分県ボランティア・市民活動センター所長「被災者に寄り添った災害ボランティア活動の振興」、大分県理学療法士協会の高橋知良副会長「災害ボランティア研修会や支援関連10団体活動等」、大分県放射線技師会の桑原宏部会長「大分県内の放射線災害への対応」、大分県医療ソーシャルワーカー協会の今尾顕太郎担当理事「災害対応構想カンファレンス」の発表がありました。その後、意見交換が行われました。

各団体とも個別に研修や想定訓練を行い、現状の見直しや改革を進めながらも、他団体・他職種と協働する方法を模索されていた。職種を超えての協働をどのように構築していくか、大きなネットワークをどのように作っていくか、がテーマに

なっているように感じました。

大分県理学療法士協会の高橋知良副会長の「思いがある時に、それが届けられることができるように組織として準備をしておこう。」という言葉が印象的でした。

今回のように他機関、他職種の団体を複数交えての研修会を行う事で、相互理解が進み、連携のとれる関係を築けると思います。

最後に、その場にいないと分からない事、感じない事がたくさんあると思います。震災から4年が経ち、関心が薄れてきている事も事実あると思います。県をあげての研修会に講師としてお招きいただき、活動報告の場を提供して下さった大分県医療ソーシャルワーカー協会の方々に心からの感謝を申し上げます。



3. 活動報告 ～追悼式に参列して～

石巻現地担当

岡村 翠

2015年3月11日、石巻で活動させてもらっているおかげで、初めて追悼式典へ参列する機会を頂きました。石巻市では河北地区（大川小学校や長面地区がある地域）にある公民館で式典が行われました。河北地区（旧河北町）は私たちが避難所時代に支援に入った地域（河南地区）に隣接しています。地域の真ん中を北上川が流れ、今回の震災では津波が逆流し堤防が決壊したことにより、400名近くの尊い命が犠牲になりました。また、長面浦の漁業や養殖業、農地の塩害、海岸付近の地盤沈下等、生活を営んでいくことが出来なくなった地域でもあります。そのため、住民により活用する制度が多岐にわたり、複雑な心境の家族がいる地域です。今なお、被災状況を目の当たりにすることが出来る場所でもあり、協力員さんに来て頂くと、フィールドワークで必ず案内する所です。

追悼式典の際、私自身は涙を流す事に抵抗感がありました。でも、会場の感情の波に巻き込まれ、自然と涙が出ました。もう少し正直になると、3月11日の数日前ぐらいから複雑な心境に陥っていたように思います。あの日を意識して仕事をしたわけでもなく、高知で過ごすようにテレビも民

放を観ていたのですが、今年もあの日が近付くと寒く、雪が舞いました。夜、テレビを消すと、静かで、涙が溢れてきました。

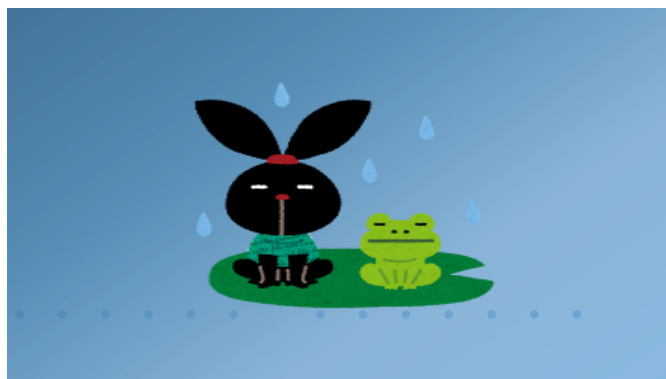
なぜ、涙が出るのか…。

泣きながら考えましたが、今でも、わかりません。

追悼式典当日、ここ数年毎朝観ているテレビで石巻市の被災者の生活が映し出されました。私たちが今関わっている家ではなかったけれど、一部損壊レベルの家屋で、「被災時と変わらず生活している」と報道されていました。

現地での仕事は、いつもと変わらないソーシャルワークのように感じます。私たち3人は、毎朝、顔を合わせ挨拶し、その日の活動予定を確認し、現場に行き、事務所に帰ってきて、笑って「お疲れさま。また明日も頑張ろう。」と言い、それぞれの家に帰ります。

被災していない所と何ら変わらない、日常生活です。でも、まだまだ震災の気配は残っています。避難所時代のように緊急性はなく、ここに長く関わらないとわかりづらいですが、災害ソーシャルワークはまだ続いています。



4. 各団体紹介



石巻仮設住宅自治連合推進会

【設立経緯】

東日本大震災後、石巻市では134の応急仮設住宅団地が建設され、約7,000もの被災世帯が入居しました。抽選入居の結果、見ず知らずの土地で暮らすことになった住民同士のコミュニティ形成は容易ではなく、一部の団地で立ち上がった自治会においても、生活ルールの維持や孤独死対策に強い危機感が抱かれていました。

そのような折、日本カーシェアリング協会の代表理事と仮設万石浦団地の自治会長（当時）の呼び掛けにより、阪神淡路大震災当時の仮設住宅（注①）自治会長との会談が行われました。5団地（万石浦、渡波第1、渡波第2、大橋、水押球場）の自治会役員が出席し、過去の事例をお聞きする中、自治会間で情報交換・連携を行うことの重要性が認識され、「自治会連合」という言葉に辿り着くこととなりました。

こうして平成23年12月9日、「孤独死をなくそう」を合言葉として石巻仮設住宅自治連合会が発足しました。そして、平成24年2月20日、石巻仮設住宅自治連合会と石巻市（市民協働推進課、被災市民生活支援課）、石巻市社会福祉協議会およ

び支援団体とで協議体を結成、石巻仮設住宅自治連合推進会を発足する運びとなり、平成25年5月17日、連合会と推進会を「石巻仮設住宅自治連合推進会」に統一することを決定し、現在に至っています。

注①：ポートアイランド第4仮設住宅（神戸市）。

自治会結成後、独自の取り組みにより孤独死を一人も出さなかった。

【活動目的】

「東日本大震災」に起因する諸問題について、関係機関と協議し、地域の健全な営みと豊かさに貢献すべく、次の目的を掲げています。

○仮設住民の生活再建、自立の実現。

○仮設および復興住宅住民の安全・安心な暮らしの確保

○震災・復興記録の後世への継承

【活動方針】

①□住民主体の活動推進

②□関係機関・団体との協議

③住民の生の声をひろい、伝える

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

5月12日（火）19：00～21：00 於：協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の
販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、



2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

次回発行予定 6 下旬予定

7. あとがき

.....

災害支援チーム事務局から

編集担当 金子

2011 年 3 月 11 日に被災した方々への支援活動が 5 年目に入りました。遊楽館に避難した方々への支援に始まり、復興公営住宅入居に至った現在まで支援を続けてきました。今年度の支援活動には「仮設住宅被災者自立生活支援事業」が加わりました。仮設住宅を出てかつてのような生活を取り戻すまでには、まだまだ長い歳月が必要なのだとあらためて知らされました。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 27 年 4 月 30 日第 5 巻（第 1 号）
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局